
夏の終わりに

桃瀬ゆえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の終わりに

【Nコード】

N8528H

【作者名】

桃瀬ゆえ

【あらすじ】

『やり残したことは、無かっただろうか？』空、雲、空気。変化の顕著さ故か夏の終わりは少しばかりの淋しさを落とす。夏の終わり。放課後の教室。友人達との他愛のない会話。登場人物に名前はありません。身体特徴的な表現もあえて避けております。

ブレる様な視界。長く長く伸びる雲。緩やかに、赤を交えた黒へのグラデーション。教室からそんな空を見上げて、思う。「夏が終わるねえ。」思わず口を開こうとした私を遮ったのは、向かいに座る友人の声だった。

けれど、遮られたことに不満はまったくない。彼女が窓の外へ投げた視線も。頬杖ついて溜息の様に出た心情も。別段眩しくはないのに細めた目に、ほんの少し淋しさが混じっていたことも。私が口を開いていたところで、ほとんど同じ様なものだっただろうから。

夏から秋へ。暑さから涼しさへの変化が、四季の中でも顕著なせいだろうか。夏の終わりは微妙な感銘を受ける。また来年には夏が当然の様に来るのだろう。今年と同じ様で、また違う、夏。そうしてまた（やり残したことは無かっただろうか？）なんて言い様の無い淋しさを感じるのだ。多分。

「なあなあなあ！夏のやり残し、やらねえ？今日の放課後。」

隣の席の男子が、あまりに丁度良過ぎるタイミングで私と彼女とに声をかけた。間の割り方がどこか空気を払拭する様な必死さを持っていたから、彼も私たちと同じことを思っていて、そうしてそんなしみじみした空気を変えたかったのかもしれない。

「なーによ、やり残しって。花火？」

「ちっげえよ。肝試し！」

彼女も彼の気遣いを察したのか、先程の空気とは打って変わって、

茶化すように受けて返す。そんな彼女にキシシと悪戯っ子の笑みで、彼。

「……絶対ヤダ。」

「なんだよー。ノリ悪いなー！そこはノっとくだろ男として！」

「いや私ら女子だし。でも確かにコイツの言う通り、今年そんなのやらなかったじゃない？行こうよ、私もついてってあげるから。」

「お前なー。そっこー『ヤダ』とか言っちゃもう奴に限って、放課後に『教室に忘れ物したー！』とかって展開になって、でもって恐怖体験とかすんだよ。」

「アンタそれはベタ過ぎるでしょ…。」

心底嫌そうに顔を顰めて私が返せば、途端にブーイングの嵐だ。

その後はやれ近所の墓地がヤバイだの、放課後の学校のどこそこを出るだの。しみじみした空気は何処かへ吹き飛んで、もういつもの教室風景だった。

そう考えると憂鬱だった気分も、会話の着火剤になって結果的には良かったのかもしれないな、なんて私は笑う。肝試しの話は、私が粘りに粘って全力で有耶無耶にさせていたのだ。最後まで彼女と彼女は口を尖らせてブーブー言っていたけれど。

「いつの間にそんなに仲良くなったのよ、二人ともさ。」

もっとも喧嘩するほど仲がいい、な体だとは前から思っていた。帰り道。彼女と別れて一人になった私の声は、単なる独り言にしかならなかった。

いや、もしかしたら誰か聞いていたかもしれないけれど。足が、動かない。この足を引き止めている誰かが聞いていたかも、知れない。この足を握り留めているナニカに意識があったの、なら。

見上げた空はグラデーション。青から藍へ、藍から紫へ、赤を含んで黒。黒。擦り伸ばした様な長い長い雲は、まるで視界がブレている様な錯覚を与えてくれる。ブレた、様な。ブレた。ブレた黒い影が視界を遮った。長い、五本指。

ブレる視界。長く長く伸びる雲。緩やかに、赤を交えた黒への鮮やかなグラデーション。

「ああ。夏が、終わる。」

（後書き）

短編は、基本『名前無し』『身体特徴表現無し』で書かせていただいております。

読み手様の中では、一体どんな人物が映っているのでしょうか？
どうぞ想像力で遊んで下さいませ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8528h/>

夏の終わりに

2010年10月16日23時52分発行